

～ 県民みんなが創る「富山の新しい教育」へのメッセージ ～

明日のとやまの教育が 目指すべき方向



富山から世界へ羽ばたき、未来を切り拓く人間の育成

富山の子ども姿

学力

全国学力・学習状況調査（20年度）

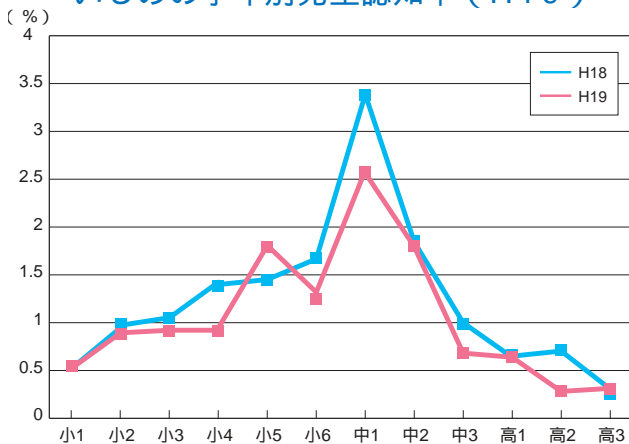
	小学校（6年生）		中学校（3年生）	
	国語	算数	国語	数学
H20	4～5位	4位	2～3位	2～3位
H19	4～5位	3～4位	1位	2～3位



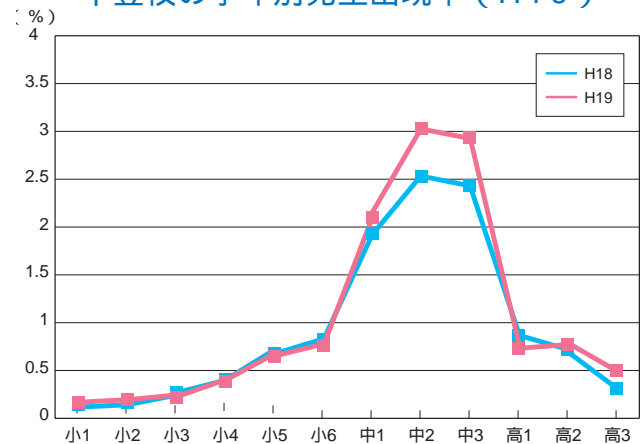
全国学力・学習状況調査によれば、本県の子どもたちの学力は、全国トップクラスの水準にあります。しかしながら、他県と同様、「知識」に比べ、「活用する力」に課題があります。

心と体

いじめの学年別発生認知率（H19）



不登校の学年別発生出現率（H19）



富山の子どもたちは、様々な学習、体験活動、運動に取り組み、健全な心と身体を育てています。しかし、今日、学校の小規模化や子ども数の減少が進む中、社会性や規範意識、困難にくじけない心や他者を思いやる心等が育ちにくい環境にあります。また、本県のいじめ認知件数は、全国平均を上回っており、暴力行為や不登校も増加傾向にあります。とりわけ、中学校1年生での増加が顕著であり、いわゆる「中1ギャップ」への対応が課題となっています。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（20年度）

	小学校（5年生）		中学校（2年生）	
	男子	女子	男子	女子
H20	14位	11位	13位	17位

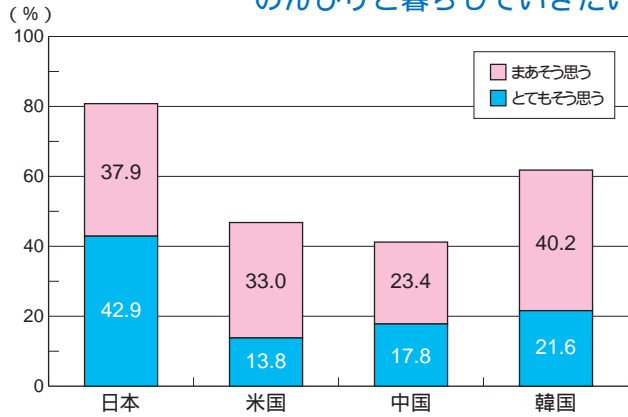


全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果などから、本県の子どもたちの体力は、全国の上位にあることが明らかとなっています。しかしながら、親の世代に比べ、体力は低下傾向にあり、また、積極的に運動する子どもとそうでない子どもに二極化する傾向にあると指摘されています。

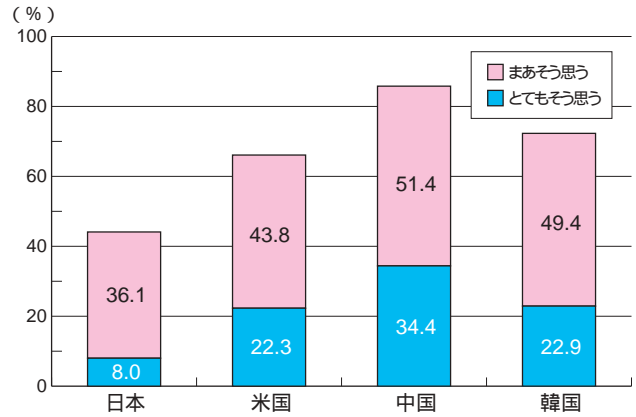
子どもたちの意識

上：青少年意識調査 財団法人「日本青少年研究所」2007.4発表 下：全国学力・学習状況調査（20年度）

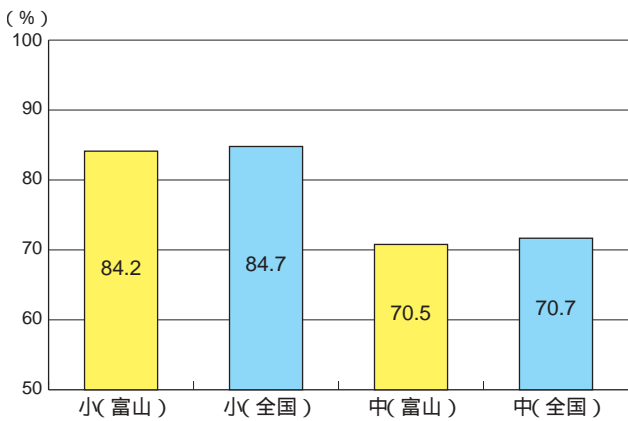
暮らしていける収入があれば のんびりと暮らしていきたい



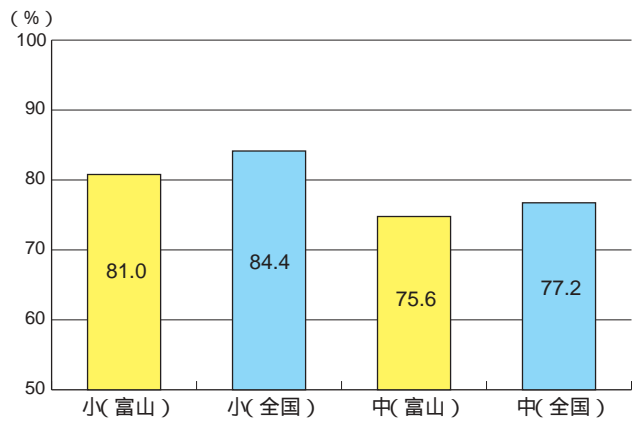
あなたは偉くなりたいと思いますか



将来の夢や目標を持っていますか



海、山、川などで遊んだことがありますか(小)



日本の子どもは、米・中・韓国などの子どもに比べ、チャレンジ精神に欠ける傾向があります。
また、本県の子どもたちは、将来の夢や目標をもっている割合や、自然を体験している割合が、全国平均を下回っています。

進路状況

進学	高校進学率（H20）	98.6%	全国7位
	大学等進学率（H20）	54.6%	全国14位
	国公立大学入学率（H20）	20.7%	全国2位
就職	県外進学大学生のUターン率（H20.3）	45.1%	-
	高卒県内就職割合（H20）	91.9%	全国5位
	高卒1年目の離職率（H19）	18.3%	全国21.5%



本県の大学進学率は全国に比べ高く、毎年5千人以上が県外の大学に進学しています。
一方で、本県へのUターン率は40%強にとどまり、毎年3千人以上が県外に流出しています。また、全国より低いものの、本県で高校を卒業し就職した者のうち、1年以内に約18%が離職しています。

明日のとやまの教育の基本理念



教育は国家百年の大計であり、明日の富山を担う「人づくり」は富山県発展の基盤です。

未来の郷土を支え、社会の発展に貢献し、また、国際社会で活躍していく人材をいかに育てていくかということは、大変重要な課題となっています。

「明日のとやまの教育」においては、ふるさと富山をこよなく愛し、広く世界に目を向け、自らの夢や目標に向かってチャレンジ精神で、未来を自ら切り拓き、富山や全国そして世界を舞台に様々な分野で活躍し、富山県や日本の活力ある社会づくりにしっかりと貢献できる人間を育てていきましょう。

また、そのために、これまで豊かな土壌に支えられて、発展してきた富山県の優れた教育を引き継ぎながら、「富山の新しい教育」を創造し、県民総ぐるみで、叡知をもって、次代を担う子どもたちの教育に情熱と力を注いでいきましょう。

「教育県富山」を支える豊かな土壌

豊かな自然に育まれた県民性

先人たちは、四季の変化に富む自然に揉まれながら「粘り強さ」「勤勉性」「積極進取の気性」などの県民性を育み、豊かな創造力とたくましい行動力を磨いてきました。

教育熱心な県民

正月に天神様の掛け軸や像を祭り、子どもの学業成就等を願う風習が現在まで続いています。PTA活動や公民館活動が活発で、生涯学習も盛んであることなど、県民の教育に対する意識は高く、多くの県民が熱心にかかわっています。

勤勉な教員と優れた教育実践

勤勉で高い使命感を持った多くの教員がいます。教員の自主的な研究組織である小学校・中学校教育研究会などには、現職教員のほぼ100%が加入し、永年にわたり授業や教材等の実践研究を積み重ね、優れた成果を上げています。

明日のとやまの教育の推進方向

保護者は家庭で子どもをしっかりと「育てる」こと、教員は自らの資質を高め、力を尽くして子どもたちを「鍛える」こと、地域住民・企業等は学校や保護者と連携して、子どもたちを「磨く」こと、行政はそれを支えていくことが大切です。



平成19年11月に設置された「明日のとやま教育創造懇話会」(座長：西頭徳三富山大学学長)では、県民の各界の代表の方々が、7回にわたる会議を重ね、学力向上策やいじめ・不登校対策など本県教育をとりまく喫緊の課題や、これからの教育振興策などについて、幅広く議論を展開していただきました。

このリーフレットは、平成21年1月30日に県へ提出されたこの懇話会の提言報告書を、県民の皆様にはわかりやすくご紹介するために作成したものです。

明日のとやまの教育を県民みんなで推進していくために (それぞれが取り組み、実現を目指してほしいこと)

「明日のとやまの教育」の推進は、子どもたちの教育にかかわる様々な者が、それぞれの役割を踏まえつつ、知恵と力を出し合いながら、県民総ぐるみで取り組むことが不可欠です。そのため、教育にかかわる者が、次のようなそれぞれが果たすべき役割等（「取り組み、実現を目指してほしいこと」）を担い、一丸となって「明日のとやまの教育」を推進していきましょう。

親や家族のみなさん

- ・ 家庭の役割と親の責任を自覚し、親、祖父母が協力して、子どもに深い愛情をもって育てましょう
- ・ 家庭は基本的な生活習慣、善悪の判断、感謝の気持ち、忍耐、マナーなどを教え、子どものしつけをしっかりと行いましょう
- ・ 親が、「親の姿（親のあり方・生き方）」を学び、積極的に子育てをしましょう
- ・ 学校に対して過度に依存せず、互いの立場を理解し、協力しましょう
- ・ 親子や家族で、地域活動・自然体験・スポーツ等を行い、絆を深めましょう



学校現場（教職員）のみなさん

- ・ 「師弟同行¹」の精神で、心身の発達に応じ、子どもたちの「力」を育成しましょう
- ・ 教員が子どもと向き合う時間を確保し、子どもたち一人一人に応じたきめ細かい学習・生活指導を行いましょう
- ・ 子ども心の不調を捉え、専門家等と相談しながら早期に適切な指導をしましょう
- ・ 教員は、誇りと情熱を持ち、自らを磨いて資質・能力を高めていきましょう
- ・ 地域に開かれた、信頼される学校づくりを進めましょう
- ・ 幼児期からの一貫性のある教育を進めるため、校種間の連携を深めましょう



1 師弟同行（していどうぎょう）：「教師が自ら学び、行動し、生徒と共に高め合うことが教えることの基本」という意味。

子どもの周りの地域のみなさん

- ・地域の大人が積極的にかかわり、子どもを鍛え、磨き、成長させましょう
- ・公民館等の地域の施設・団体が、大人と子どもと一緒に参加できるような行事や活動機会を多く提供しましょう
- ・地域と学校が力を合わせて、子どもの学校生活、家庭の子育て、安心・安全な教育環境づくりを支えていきましょう



民間企業や大学等

- ・子育て中の親を支え、家族の絆を深めることができる職場環境づくりを進めましょう
- ・社会体験（職場見学、14歳の挑戦、インターンシップ）や専門的な技能の向上、課外授業等で、子どもの教育活動を積極的に支援しましょう
- ・大学等の教育資源を、学校・地域の子どもの教育に積極的に還元しましょう
- ・大学等は行政と連携して、質の高い教員の養成や資質の向上に取り組みましょう



行政（県、市町村、県及び市町村の教育委員会・教育センター）

- ・富山ならではの質の高い教育を行っていくための特色ある取組みや環境整備を、いわば「富山スタンダード」として推進し（10ページ参照）その成果を検証しましょう
- ・教員の資質を高めましょう
- ・家庭・地域等における子どもの教育を支援しましょう
- ・教育以外の分野を含めた総合的な観点から教育施策を進めましょう
- ・教育ニーズを的確に把握し、PDCAサイクル²により効果的に実施しましょう



2 PDCAサイクル：「企画立案(Plan) 実施(Do) 評価(Check) 改善(Action) 企画立案(Plan)...」というマネジメント手法（マネジメントサイクル）。行政運営では、政策を実効性あるものとしていくため、政策目標の達成状況を継続的にフォローアップし、課題を検証して、改善を繰り返していくこと。

明日のとやまの教育が目指すべき方向

4つの観点と12の提案

観点1

変化する社会に果敢にチャレンジし、生き抜いていく
確かな力を育てる

提案（取組方針）

- 1 チャレンジ精神を持って未来を切り拓く、
力強い人間を育てる
- 2 ふるさとに誇りと愛着を持った国際人を
育てる
- 3 社会の変化に対応できる能力を育成する



理科支援員の授業風景（魚津市立吉島小学校）

重点的に取り組む方策

「将来の夢・目標」を育む体験や学習機会の充実及びチャレンジ精神を養う教育の推進
言語能力、コミュニケーション能力の育成を重視した教育の推進
視野を広げ、社会性や感性、勤労観等を養う、（14歳の挑戦等）各種の体験活動等の推進
経済団体やPTA等と連携した「キャリア教育³」、「ものづくり教育」の推進
高校生が郷土や近現代の日本の歴史を学べる機会の充実
郷土の自然、文化への理解を深め、それらに育まれたふるさとの文学に親しみ学ぶ活動やふるさとに対する誇りと愛着を養う取組みの推進
理解支援員の派遣等による理科教育の充実、思考大会⁴や科学オリンピックの開催等による思考力や理数能力を伸ばす取組みの推進
情報活用能力及び情報モラルの育成、インターネット・携帯電話の正しい知識等の普及



社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業



高校生インターンシップ事業

- 3 キャリア教育：学校の場合、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育をいう。
- 4 思考大会：富山県児童生徒思考大会。富山県教育会が昭和32年から実施し、毎年、小・中学生あわせて約800名が参加。算数や数学に関し、独自の問題を出題するユニークな大会として全国から注目されている。

観点2

優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った 「元気とやまっ子」を育てる

提案（取組方針）

4 基礎的な学力と活用力をバランスよく伸ばす

5 全ての子どもが高い規範意識と社会性、
規則正しい生活習慣を身につける

6 いじめ・不登校など、子どもたちの心の問題
の解決に全力で取り組む

7 命を尊び、心を磨き、身体を鍛える教育を進
める



中1学級支援講師の授業風景
(射水市立大門中学校)

重点的に取り組む方策

とやま型学力向上プログラム⁵の普及や授業改善等による総合的な学力向上策の推進
「中学1年生の35人学級（選択制）」の導入（小学校1・2年生での少人数学級は堅持）
及び中1学級支援講師の活用による中1ギャップ⁶へのきめ細かい対応と生徒指導の充実
小学校3年生からの少人数指導の推進、小学校専科教員の拡充
家庭学習の習慣化に向けた取組みの促進（早寝・早起き・朝ごはん、わが家のきまり等）
スクールカウンセラーの全公立中学校配置、小学校及び教育事務所への配置の拡充による教育相談体制の充実
PTAや地域との連携による「いのちの教育」⁷の積極的な普及・推進
家族でスポーツに親しむ機会の充実や、食育・健康づくり教育の推進



小・中・高校生合同のあいさつ運動（さわやか運動）



日野原重明先生「いのちの授業」(滑川市立寺家小学校)

- とやま型学力向上プログラム：本県では、「とやま型学力向上プログラム」として、児童生徒同士が教え合い、認め、支え合う学習活動（「学び合い」）を通して、人間関係づくりと学力向上を一体的に進める授業を推進している。加えて、「体験」を通して、習得した知識・技能を効果的に活用する力等を伸ばす学習サイクルをつくることも進めている。
- 中1ギャップ：小学生から中学1年生になると、教科担任制の授業や部活動が実施され、そうした学習や生活の変化になじめず、生徒の学習意欲の低下、不登校、いじめ等が急増する現象。
- いのちの教育：いのちの大切さを実感するための授業や体験を行う教育活動。日常の授業や学校生活の中で「いのち」を意識するような教育活動を展開すること。

観点3

家庭、学校、地域の教育力を結集し、子どもの教育環境づくりを進める

提案（取組方針）

8 親の学びを応援し、家庭の教育力を高める

9 家庭、学校、地域、企業が結びつきを強め、地域ぐるみで教育の充実を目指す

重点的に取り組む方策

親子や家族のふれあいと絆を深める活動機会の充実

PTA等や企業と連携した「親を学び伝える学習プログラム」の普及と活用の推進

放課後や週末等における子どもたちの学習・体験・遊びの場づくりの推進

公民館等における異世代・異年齢との交流活動や子どもの自然体験活動、伝統・文化活動の推進

企業との連携協力による子どもの社会体験や家庭教育の充実



公民館わくわくどきどき自然体験事業
（わくわく魚取り）

観点4

教育の質を高め、富山ならではの学校づくりを進める

提案（取組方針）

10 教員の指導力・人間力を高めるとともに、子どもと向き合う時間を確保する

11 未来を見据えた高校の教育改革を推進する

12 信頼される学校づくりを推進する

重点的に取り組む方策

「教師塾」の開設等による「富山の優れた教育実践（教育力）」を継承する仕組みづくりの推進

県立高校の再編統合に併せた「ものづくり中核校」や「探究科⁸」など新しいタイプの学校・学科づくりの推進、

障害のある生徒の自立・就労を目指す高等養護学校の開設

小1プロブレム⁹等の解消に向けた幼保小の連携の強化

学校の耐震化の推進

子ども自らが危機回避能力を身につける「安全教育」の推進



学校の耐震工事（ふるさと養護学校）

8 探究科：人文・社会科学系、自然科学系の専門的な研究につながる学習を進めることを目標とした、高校における新しいタイプの学科。京都市立堀川高校に設置されている。

9 小1プロブレム：小学校に入学したばかりの1年生が、学校生活になじめず、集団行動をとれない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態になり、学習や学級運営等に支障がある状況。

「富山スタンダード」を推進していきましょう。

「富山スタンダード」とは、富山ならではの質の高い教育を行っていくための環境整備や取り組みです。

富山の特徴を生かした富山ならではの教育活動の推進や、質の高い教育を支える広い意味での環境整備（教員の資質向上、家庭・地域の教育力の向上等）を推進して、家庭、学校、地域、企業等が一体となって、全国に誇りうる質の高い教育を創りあげましょう。

「富山スタンダード」の取り組みの例

1 ふるさとに対する誇りと愛着を持つ

(1) 万葉集の学習

日本最古の歌集「万葉集」の中で、越中万葉と呼ばれる337首は独特の魅力があります。

また、「万葉集」の編者である大伴家持は、生涯の作品の約半分を5年間の富山の滞在中に詠んでいます。（「立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神からならし」など）

この「万葉集」を教材とした学習を中学校、高校で進め、とやまの文化遺産を世界に発信します。

(2) ふるさと文学に親しむ学習

四季折々で美しく豊かな富山の自然や人を題材とした小説や随筆、和歌や俳句、紀行文や評論など、本県には様々なジャンルの文学作品が多数存在しています。（新田次郎の「劔岳点の記」、宮本輝の「蛭川」、柏原兵三の「長い道」など）ふるさと富山の文学作品に親しみ学ぶ機会の充実に努め、ふるさとのよさに共感するようにします。

(3) 郷土史の学習

学校や地域において郷土の歴史や文化、先人の英知や偉業に関する理解を深める学習活動を進め、ふるさとの心と広い視野を身につけます。

2 子どもたちの力の底を支える

(4) とやま型学力向上プログラム

本県の学力向上策である「とやま型学力向上プログラム」は、児童生徒同士が「学び合い」と「体験」を通して、人間関係づくりと学力向上を一体的に進める授業等を推進しています。

(5) 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

本県が全国に先駆けて実施した「14歳の挑戦」は、中学2年生が規範意識や社会性、職業観や勤労観を高め、将来の自分の生き方を考えるよい機会となっており、全国的にも注目されています。

(6) みんなでチャレンジ3015

本県小学校では、独自の体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」を配布し、小学校1年生から6年生までの全員が、立山の標高（3,015m）にちなんで設定された目標点（3,015点）目指して、自ら進んで運動・体力づくりに取り組んでいます。

(7) 中1学級支援講師と中1・35人学級選択制

「中1ギャップ」にきめ細かに対応する富山県独自の事業である「中1学級支援講師」の配置に加え、新たに中学1年生を対象として少人数学級（35人以下）と少人数指導のいずれかを、学校の実情に合わせ柔軟に選択できるようにします。

3 子どもたちの卓越した部分を伸ばす

(8) 思考大会と「とやま科学オリンピック」

富山県教育会が昭和32年から実施している「富山県児童生徒思考大会」は、算数や数学に関する独自の問題を出題するユニークな大会として全国から注目されています。また、科学する心や思考力を育成する「とやま科学オリンピック」を新たに実施することを検討します。

(9) ものづくり教育

本県のものづくりの伝統を継承しながら、職業人として必要な基礎的な技術、技能、知識とともに実践的な能力を身に付けさせ、本県産業等を支える担い手を育成しています。

4 家庭、学校、地域の教育力の向上

(10) 親を学び伝える学習プログラム

このプログラムは、親のあり方や子どもへの接し方を保護者自らが考え学ぶための富山県独自の教材です。県PTA連合会では、全ての小・中学校PTAでのプログラムの活用・実践を推進しています。

(11) 小学校教育研究会、中学校教育研究会、高等学校教育研究会など

戦後、本県の教員の自主的な研究組織として設立された小学校、中学校、高等学校の各教育研究会等には、現職教員のほぼ100%が加入し、「授業研究」「教材研究」などの実践を積み重ね、成果を上げています。

(12) 公民館活動

地域の人々の最も身近な教育拠点として、全国でも有数の活発な活動を行っている公民館において、異世代・異年齢集団との交流活動（三世代交流地域探訪）や自然体験活動（公民館わくわくどきどき自然体験事業）などを進め、地域の教育力の向上を進めています。

明日を担う富山の子どもたちに育んでいきたい「5つの力」

私たち一人一人が、家庭、学校、地域の教育力を高め、知恵と力を合わせて子どもたちの教育に真摯に取り組む、明日を担う富山の子どもたちに、次のような「5つの力」を育んでいきましょう。

将来の夢や目標を持ち、進路を自ら選択・決定する力、チャレンジする精神、生涯にわたり学び続ける意欲

我が国やふるさと富山の自然、歴史・文化に関する理解を深め、誇りと愛着を持ち、広い視野に立って、社会に貢献していこうとする態度

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、自ら学び、考え、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力

規範意識や公共心を身につけ、命を尊び、他者を思いやり支え合う心、感動する心を持った豊かな人間性

心身の健康を保つ実践力とたくましく生きるための体力

子育てや家庭でのしつけなど、子どもの教育についてわからないことや、困ったこと、いじめなどの、ご相談はこちらへ

富山県総合教育センター

教育相談 TEL.076-444-6167 月・金 13:00～17:00、火・水・木 9:00～12:00 13:00～17:00

子どもの発達相談 TEL.076-444-6351

24時間いじめ相談ダイヤル TEL.076-444-6320 (FAXも可)

メール: future@tym.ed.jp

教育事務所相談電話

東部教育事務所 TEL.076-441-3882 月・水・金 8:30～17:30、火・木 8:30～18:00

西部教育事務所 TEL.0766-26-7830 月・水 8:30～17:00、火・木・金 9:30～18:00

富山中央警察署・高岡警察署

いじめ110番 TEL.0120-32-7867 月～金 8:30～17:15

ヤングテレホンコーナー TEL.0120-87-3415 月～金 8:30～17:15

児童相談所(富山・高岡)

子育てテレホン相談 富山TEL.076-422-5110 月～金 9:00～18:00

高岡TEL.0766-25-8314 月～金 8:30～17:00

子育てメール相談 c-care@esp.pref.toyama.lg.jp

子育てほっとライン TEL.076-433-4150

月～金 10:00～22:00 土 17:00～22:00

家庭教育カウンセリング 月 9:00～17:00

予約が必要です。お問合せは「子育てほっとライン(076-433-4150)」まで

子どもほっとライン(小学生、中学生、高校生等18歳程度までの方)

TEL.076-443-0001

メール: kodomohl@tam.ne.jp

教育行政相談電話 (県教育企画課) TEL.076-444-8177

生涯学習に関する相談(県民生涯学習カレッジ) TEL.076-444-8401



この冊子に関するお問合せは、富山県教育委員会教育企画課まで 電話 076-444-4583

「明日のとやま教育創造懇話会」のホームページ: http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/3000/ki00007777.html